

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年10月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1070900194
法人名	社会福祉法人 山紫会
事業所名	グループホーム 音和の家
所在地	群馬県藤岡市藤岡2874-9 (電話) 0274-24-8810
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成20年9月25日

【情報提供票より】(20年9月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13年	5月	1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人	
職員数	9 人	常勤	8 人, 非常勤	1 人, 常勤換算	7.1

(2) 建物概要

建物構造	(S造 ・ 鉄骨) 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900	円	

(4) 利用者の概要 (9月2日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立藤岡総合病院 星野医院 光病院 原歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは管理者と職員が運営理念を共に考え「利用者が尊厳を持って、望む生活が送れるよう支援する。」と掲げて、常に理念に立ち戻りながら共有し、ケアサービスの実践に取り組んでいる。利用者の思いや意向のサインを見逃さないようキャッチする努力を行っている。また、表現しやすい働きかけを行なっている。一人ひとりのペースを尊重し、思いや意向を大切に生活支援を目指し、努力しながら取り組んでいる。一人ひとりの利用者には力を出していただくことには力を発揮してもらおう場面づくりをし、身体機能の維持、向上に取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①地域密着型サービスとしての理念の見直しは、事業所独自の理念を掲げているが地域との関係性が入れられていない。②理念の共有と日々の取り組みについては、理念には日々のかかわりを振り返る時等で折にふれながら確認しながらケア実践をしている。③地域とのつきあいは運営推進会議の意見や情報をもとに交流をするようにしている。④評価の意義の理解と活用は自己評価には職員間で意見交換をし作成をしている。⑤市町村との連携は事業所側から積極的に交流を持つようにしている。⑥職員の異動による影響への配慮は利用者へのダメージを防ぐために工夫をしている。⑦馴染みながらのサービス利用は見学をしてもらい利用者や職員と一緒に過ごしてもらう等の工夫をしている。⑧介護計画の見直しについては、現状のままである。⑨重度化や終末期に向けた方針の共有は状態の変化に応じて医師、家族、事業所と話し合い意向にそって支援しているが文章化は図っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者がまとめを行い、ミーティングで職員に意見を求めており、意見を反映させて作成が行なわれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的開催をしており、事業所から利用者の様子や活動状況、事故や苦情等の報告を行い、参加者から意見や要望を聴いている。地域情報や事故防止対策の意見が出されている。家族だけの新年会をしてはどうか等の意見を運営に反映させて実施している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見等を聴くように努めている。運営推進会議に参加した家族からは意見や要望を聴くようにしている。意見箱を設置しており、意見や苦情等は運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>畑仕事をしている方にお茶を出す、野菜を頂く、散歩時に挨拶を交わす、小・中学生の職場体験、ボランティアの受け入れ(草刈、慰問、小学生等)、法人の納涼祭に地域の方を招待、子供みこし、祭り見学、近隣の施設等の地域交流が持たれている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を職員間で話し合い見直しを行っている。「利用者が尊厳を持って、望む生活を送れるよう支援する」と掲げ、ケアサービスを実践しているが、現在は地域との関係性は取り入れられていない。	○	地域密着型サービスの意義や目的を全職員でもう1度話し合い、利用者が地域の一員として生活を送ることを支える理念を話し合い、掲げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は利用者のケア実践にあたり、理念を折に触れながら共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	畑仕事をしている方にお茶を出す、野菜を頂く、散歩時に挨拶を交わす、小・中学生の職場体験、ボランティアの受け入れ(草刈、慰問、小学生等)、法人の納涼祭に地域の方を招待、子供みこしが来てくれる、祭り見学、近隣の施設等地域との交流が持たれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者がまとめたものに対して、ミーティングで職員に意見を求め、出た意見を反映させ作成をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催をしており、事業所から利用者、活動状況、事故や苦情等の報告を行い、参加者から意見や要望を聴いている。地域情報や事故防止対策の意見が出る。家族だけの新年会をしてはどうか等の意見を運営に反映させて実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れをしている。利用者の状況報告や相談等で、連絡を密にして助言等を受けるように連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時に暮らしぶりや活動状況等の報告をしている。必要に応じて電話で報告している。毎月ホーム便りを発行し、個別に担当者が一言添え送っている。金銭面も定期的に報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見を聴くように努めている。運営推進会議に参加した家族からは意見や要望を聴くようにしている。意見箱を設置しており、意見や苦情等は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合は、利用者、家族に紹介をしている。入職者には、先輩職員が基本的な対応やケア方法等を指導しながら共に支援にあたり、利用者へのダメージを防ぎ、馴染みの関係が築かれるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修には計画的に参加するようにしている。基礎研修、実践者研修、実践リーダー研修、交換研修等を受講している。事業所内では、「アセスメントについて」や法人で「認知症の理解とケアについて」等の研修を行い、レベルアップを図る努力をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、交換研修や連絡協議会主催の大会では発表をしている。他の事業所と情報交換を行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族等に見学をしてもらい、利用者、職員と一緒に過ごしてもらいながら雰囲気を見てもらい、本格的な利用につながる様になっている。体験宿泊を状況に応じて勧めてみることもある。利用になってからは、馴染めるように対応策を話し合い、工夫を行う努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理(卯の花づくり等)、味付け、調味料の分量、昔の歌、踊り等教わることが多い。共に過ごし支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の会話、行動、反応、サインを見のがさないよう留意し、思いや意向の把握に努めている。その情報を職員間で共有し日々のケアに活かすようにしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日々のかかわりの中で思いや意向を聴き、介護計画に反映させるようにしている。職員間ではケース会議で意見交換やカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時、状態の変化に応じて見直しを行っている。定期的な見直しについては、6ヵ月に1度とモニタリングは毎月行っている。職員間で話し合い、本人、家族等に説明し確認しながら現状に即した新たな計画を作成している。	○	安定している利用者の場合も、毎月のモニタリングを活かして、本人や家族の意向や状況を確認すると共に、職員の情報や気づき、ケアのアイデアを集めて、実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくためにも、定期的な見直し期間の短縮をしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の希望や状況に応じて、通院介助、買い物、送迎、理美容院等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医になっている。また、受診や通院は本人、家族の希望に応じて対応している。協力医療機関と連携を図っており、往診はいつでも受けられる体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に応じてその都度、医師・家族・事業所等で話し合いを繰り返し、意向に添った支援をしている。事業所としての指針を定め文章化はされていない。	○	重度化や終末期に向けた対応方針を定め、それを文章化し、できるだけ早期から本人や家族等、かかりつけ医等ケア関係者と話し合いを繰り返し、その時々家族等の意向を確認しながら、関係者全体で対応方針の統一を図っていかれるとよいのではないかと。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を大切に、さりげない言葉かけや対応に配慮しながら支援をしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、決まりや都合を優先するのではなく、その日、その時の本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の厨房でおかずは作られてくるが味噌汁、ご飯を炊く、頂いた野菜を料理する等はホームで作っている。調理の下ごしらえ、盛り付け、片付け等利用者と共に行っている。職員と利用者は同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入れる体制にしており、本人の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援をしている。時には利用者同士で一緒に入ることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、リネン交換、草むしり、おしぼり巻き、食事の準備、片付け、野菜の栽培、ゴム紐とおし、ドライブ、祭り、買い物、近隣の施設の運動会、中学の文化祭、ボランティア(歌、手品、大正琴等)の受け入れ、散歩、外食、出前等役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、外食、法人へ食事を取りに行く、家族と外出、庭やベランダで過ごす等戸外に出て季節を肌で感じてもらう、心身の活性につながるよう外気にふれるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、見守りを行い安全面に配慮し、日中は玄関に鍵をかけることを常態化せず、自由な暮らしを支援する努力をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回法人と一緒に総合防火訓練を行っている。地域の方(協力隊員)に参加と協力の依頼をしてある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員は情報を共有している。法人の管理栄養士が献立を作成しているので、栄養バランスは管理されている。週二回は手づくりおやつ(おやき、お饅頭、草もち、プリン、ホットケーキ等)を利用者とともに作り楽しんでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に花のプランターを設置し季節感を演出している。ホール内は利用者の絵や作品、藁で作った飾り物やソファ、椅子がある。和室に掘りごたつ、人形、大正琴、茶箆等がある。ベランダに椅子、テーブルも設置されており、居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆等、茶箆等、時計、仏壇、裁縫箱、アルバム、家族写真、利用者が描いた絵等持ち込まれており、一人ひとりが安心して過ごせる居室となっているように見受けられた。		